

健康

文化と品格を誇れる価値あるまちへ

文化

都市
再生

環境

- 1 健康ライフの創造
- 2 レッツ・生涯スポーツ
- 3 食育推進プロジェクト
- 4 介護予防大作戦
- 5 健康センター構想の推進
- 6 感染症予防・安全な暮らしの確保
- 7 身近な医療体制の整備

健康

1 健康ライフの創造

21年度事業費：768,978千円

【目標】

- 健康寿命の延伸に向け、予防を重視した健康づくりを実践できる環境が整備され、区民一人ひとりが主体的な健康管理と健康増進に努めている。
- 家庭や地域コミュニティの豊かなつながりを広げ、健康づくり基盤の整備に取り組むことにより、持病のある人、障害のある人、高齢の人それぞれが持つ能力を活かし、充実した人生を送っている。

【取組み方針】

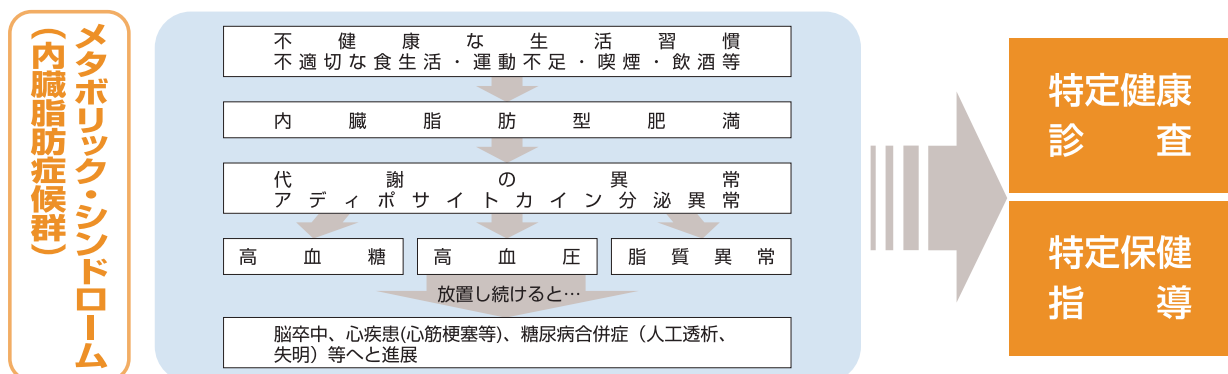
- 健康プランに基づき健康増進事業・健康づくり対策を推進する。
- 特定健康診査・特定保健指導や各種の健康増進事業を通して、二次予防のみならず、一次予防に重点を置いた健康づくり対策を推進する。
- 個人・行政・関係団体・教育機関・地域が協働し、病気や加齢による障害の進行を防ぎ、健康で心豊かに暮らせるような環境を整備する。

【主な事業】 ※経費は21年度事業費総額、また、末尾 [番号] は第7章の事業番号に対応

◆ 生活習慣病予防健診事業	(継続)	7,502千円	46
◆ 特定健康診査・特定保健指導事業	(継続)	259,491千円	47
◆ 特定健康診査時の区独自健康診査事業	(拡充)	161,102千円	48
◆ 長寿健康診査事業	(継続)	191,179千円	49
◆ がん検診事業	(継続)	146,741千円	50
◆ 健康チャレンジ！応援団	(新規)	2,023千円	51
◆ 女性のしなやか健康づくり	(継続)	940千円	52

【チャレンジ指標】 ※調査等の関係で、基準値以降の数値がない場合、現在欄は「同左」としています。

指標名称	基準値	現在	4年後 (24年度)	目標 (27年度)
メタボリック・シンドロームの理解度	69.2% (19年度)	同左	80%	85%
運動習慣のある人の割合	51.3% (19年度)	同左	60%	62%
がん検診の受診率	4.2% (18年度)	5.0% (19年度)	5.2%	6%
喫煙率の減少	20.3% (19年度)	同左	15%	12%
特定健康診査の受診率	—	—	65%	70%



21年度事業費：669,654千円

【目標】

- 子どもから高齢者まで、幅広い世代の区民がスポーツ活動に参加することができ、区民一人ひとりが健康の維持・増進に取り組んでいる。
- 自主的なスポーツ・レクリエーション活動を支援するしくみがあり、世代間の交流を図りながら生涯スポーツを楽しめる場が整備されている。
- 地域コミュニティ、教育、子育て、食育、健康づくりなど、スポーツ施策と各分野の施策との横断的・総合的な連携が図られている。

【取組み方針】

- スポーツ施設の整備検討を進め、次代を担うジュニアの育成や健康づくりにつながる講座・教室等を開催する。
- 総合型地域スポーツクラブの活動を通じ、スポーツの楽しさを知り、身近にスポーツのできる機会を提供する。
- 区内の関係団体との連携を図り、講師、インストラクターを派遣する。
- (仮称)南長崎中央公園内のスポーツ施設の整備や既存体育施設の改修を行い、心身両面に影響を与えるスポーツに、生涯にわたり親しめる環境を整備する。

【主な事業】

〔※経費は21年度事業費総額、また、末尾 [番号] は第7章の事業番号に対応〕

◆(仮称)南長崎中央公園の整備	(新規)	76,998千円	[318]
◆豊島体育館の改修	(継続)	586,367千円	[319]
◆総合型地域スポーツクラブの育成モデル事業	(継続)	939千円	[316]
◆ジュニア育成・シニアスポーツ振興事業	(拡充)	5,350千円	[315]
◆【再掲】健康教育推進事業	(継続)	940千円	[114]

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値 (19年度)	現在 (20年度)	4年後 (24年度)	目標 (27年度)
区立体育施設の利用者数	703,625人	733,791人	↗	↗
週1回以上のスポーツ実施率	34%	45%	↗	↗



【池袋スポーツセンター】



【子どもたちへのスポーツ指導】

健康

3 食育推進プロジェクト

21年度事業費：53,253千円

【目標】

- 健康の基礎である食の基本が区民に理解され、すべての年代において健全な食習慣の実践があり、節度ある食生活を享受している。
- 家庭における食習慣の改善、子どもの健全な心身の成長、区民の生活習慣病予防が図られている。

【取組み方針】

- 食に関する体験活動の促進、適切な知識の啓発など、区民参画により食育運動の推進を図っていく。
- 成長過程にある子どもの食について、保護者や教育関係者の意識の向上を図り、各々が果たすべき重要な役割についての自覚を促す。
- 保健所や学校、保育園などでの食育関連事業、区民の自主活動、企業活動などの取り組みを踏まえ、豊島区における総合的な食育推進プランを策定し、食育推進運動を実践する。

【主な事業】〔※経費は21年度事業費総額、また、末尾 [番号] は第7章の事業番号に対応〕

◆ 健康プラン・食育推進プランの策定	(継続)	1,829千円	55
◆ 学校における食育の推進事業	(継続)	44,432千円	115
◆ おたっしゃ給食事業	(継続)	4,881千円	54
◆ 健康づくり協力店普及啓発事業	(継続)	510千円	56
◆ 栄養指導事業	(継続)	1,601千円	57

【チャレンジ指標】〔※調査等の関係で、基準値以降の数値がない場合、現在欄は「同左」としています。〕

指標名称	基準値 (19年度)	現在 (20年度)	4年後 (24年度)	目標 (27年度)
栄養成分表示の参考度	57.7%	同左	60%	65%
朝食を欠食している人の割合	12.0%	同左	11%	10%
食事のバランスや量に注意して 食べている人の割合	34.8%	同左	37%	40%
適正体重を維持している人の割合	67.8%	同左	70%	72%
健康づくり協力店数	73店舗	78店舗	100店舗	120店舗



【としま豊かな食コンクール】



【離乳食講習会(池袋保健所にて)】

21年度事業費：125,106千円

【目標】

- 高齢になってもイキイキと自立した日常生活が維持でき、全体として要介護者が減少している。
- 地域において介護予防・認知症予防が普及し、多くの高齢者が効果的な介護予防・認知症予防プログラムに参加することで、社会を支える活力となる元気高齢者が増えている。

【取組み方針】

- 生活機能評価を実施し、高齢者が要介護状態に陥りやすい老化のリスクを早期に発見し、早期対処に繋げる。
- 運動プログラムや認知症予防プログラムなど、介護予防に効果的なプログラムを整備する。
- 地域での介護予防を推進するため、効果的な普及啓発事業を展開する。

【主な事業】

〔※経費は21年度事業費総額、また、末尾 [番号] は第7章の事業番号に対応〕

◆ 介護予防普及啓発事業	(継続)	3,254千円	32
◆ 介護予防運動プログラム事業	(継続)	30,359千円	34
◆ 認知症予防プログラム事業	(継続)	3,331千円	35
◆ 介護予防生活機能チェック事業	(継続)	88,162千円	33

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値 (19年度)	現在 (20年度)	4年後 (24年度)	目標 (27年度)
元気高齢者（要介護・要支援認定を受けていない高齢者）の割合	83.0%	83.5%	85.0%	86.5%
特定高齢者決定者のうち介護予防プログラム参加者の割合	7.1%	8%	12.0%	15%
介護予防事業（運動プログラム）参加者数	332人	373人	531人	650人

『介護予防』は「病気予防」と「老化予防」
要介護状態の原因への対策が必要

中年期（40～64歳位）

がんや糖尿病などの生活習慣病が健康管理の中心

生活習慣病の予防

- がん
- 脳卒中
- 心臓病
- 糖尿病など

病気の
早期発見・
早期治療



【介護予防教室】

高齢期（65歳以上）

生活習慣病に加えて、生活機能が低下する生活不活発病への対応が必要

生活不活発病の予防

- 生活機能低下
- 転倒・骨折
- 低栄養
- 認知症
- 閉じこもりなど

要介護状態の
危険信号の
早期発見・
早期対処



【高齢者マシントレーニング】

健康

5

健康センター構想の推進

【目標】

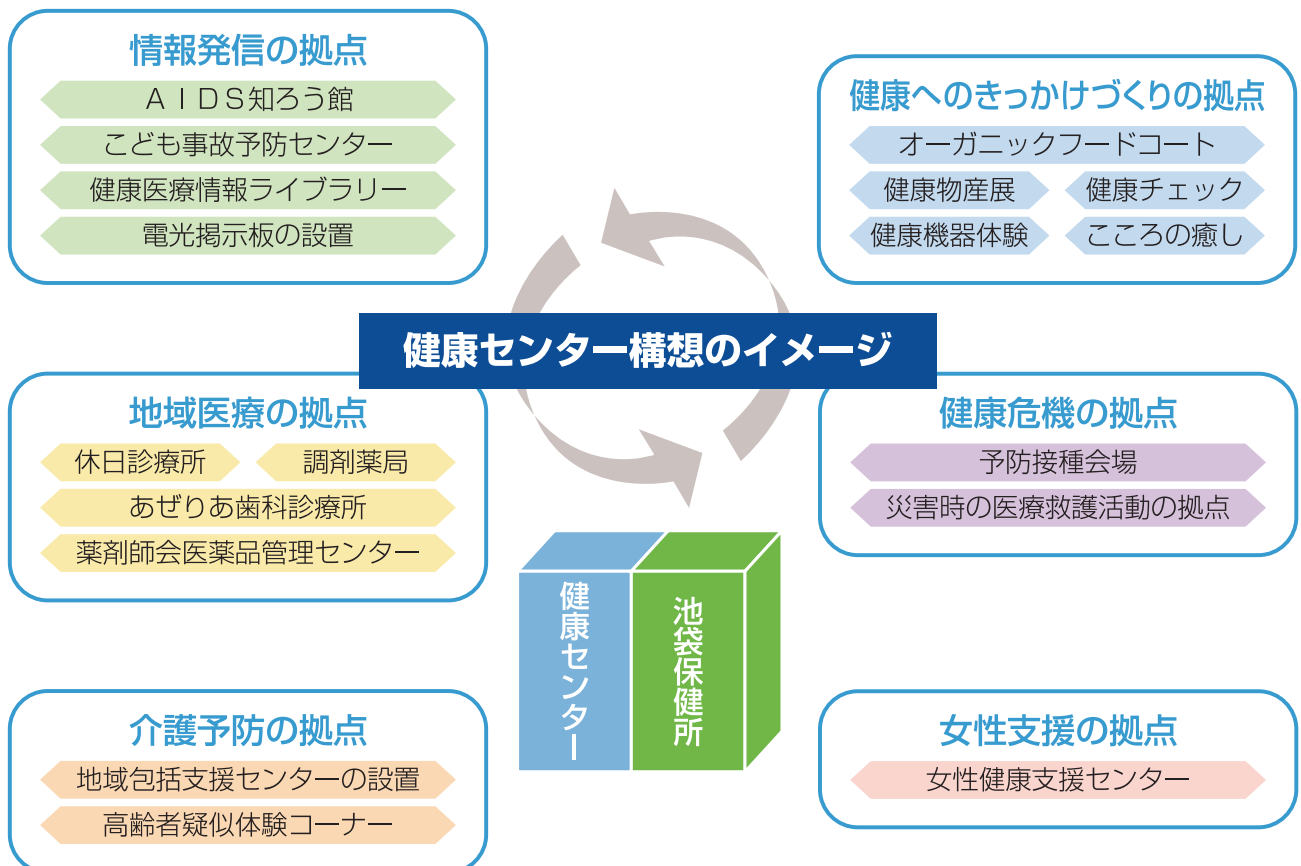
- 健康センターが、予防重視の観点から区民が健康づくりに取り組むきっかけとなるような施設として、身近で気軽に立ち寄れる区民の健康づくりの拠点となっている。

【取組み方針】

- 新庁舎の整備に合わせ、健康へのきっかけづくり・地域医療・健康情報の発信・健康危機・女性支援・介護予防等の拠点的な施設として、池袋保健所に隣接した健康センター構想の実現を図る。

< 施設のイメージ >

- ◇ 健康へのきっかけづくり：オーガニックフードコート・健康物産展・健康チェック・健康機器体験・こころの癒し
 - ◇ 情報発信：AIDS知ろう館・子ども事故予防センター・健康医療情報ライブラリー・電光掲示板の設置
 - ◇ 地域医療：休日診療所、あぜりあ歯科診療所、調剤薬局、薬剤師会医薬品管理センター
 - ◇ 健康危機管理：予防接種会場、災害時の医療救護活動の拠点
 - ◇ 介護予防：地域包括支援センター・高齢者疑似体験コーナー
 - ◇ 女性支援：女性健康支援センター
- 長崎健康相談所を統合し、池袋保健所に保健・健康機能を集中、強化するとともに、平和小学校跡地に整備する複合施設において、健康づくり支援機能を確保する。



21年度事業費：258,923千円

【目標】

- 健康危機管理体制が強化され、区民一人ひとりが感染症や食中毒に関する正しい知識を理解し予防策を実施していることにより、健康被害が最小限にとどめられている。

【取組み方針】

- 区民一人ひとりが、感染症や食品・医薬品等について正しい知識を持ち、日常の習慣・消費生活などにおいて適切に行動できるよう、健康危機や食品表示等に関する効果的な情報提供を進める。
- 感染症予防に関する知識の普及啓発、感染症情報の収集・分析・提供、関係機関との連携・協力体制の整備、予防接種の促進など事前対応型の予防対策を強化する。
- 新型インフルエンザの発生に備え、医療資器材等の整備・備蓄を拡充するとともに、国や東京都の行動計画等の改訂に応じた「豊島区新型インフルエンザ対策行動計画」の改訂や発生した場合の「区業務継続計画」の策定、区民に向けた事前対策や感染予防策の理解促進などの対策を推進する。

【主な事業】

〔※経費は21年度事業費総額、また、末尾 [番号] は第7章の事業番号に対応〕

◆ 感染症及びエイズ対策事業	(継続)	5,382千円	62
◆ 予防接種事業(日本脳炎予防接種の積極的勧奨の再開)	(拡充)	237,557千円	64
◆ 新型インフルエンザ対策事業	(拡充)	15,584千円	66
◆ 食の安全推進事業	(継続)	400千円	67

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値	現在	4年後 (24年度)	目標 (27年度)
食中毒事故の発生件数	5件 (18年度)	5件 (19年度)	0件	0件
結核罹患率 (対人口10万人)	37.0 (18年度)	38.1 (19年度)	37.0	37.0
エイズ予防教育対象校数	12校 (18年度)	14校 (19年度)	16校	16校
感染症・食中毒予防講習会 開催件数	112回 (18年度)	109回 (19年度)	140回	140回
麻疹予防接種率	第1期 77.4% 第2期 68.0% (18年度)	第1期 91.9% 第2期 80.2% (19年度)	各定期95%以上	各定期95%以上

新型インフルエンザに
備えた地域の連携

【感染防護服選定プレゼンテーション】

7 身近な医療体制の整備

21年度事業費：352,661千円

【目標】

- 適切な医療情報を区民に提供するとともに、休日や夜間を含めて、誰もが安心して身近な医療機関で治療が受けられる環境と体制が整備されている。

【取組み方針】

- 身近な場所で適切な医療サービスが受けられる体制づくりを推進し、都立病院や地域の医療機関等との医療連携により、患者中心の医療を実現する。
- 休日診療及びあぜりあ歯科診療にかかる調剤業務とともに、医薬品や健康食品等にかかわる健康相談窓口を充実する。
- 子育て支援の観点から平日夜間の小児救急診療事業の円滑な推進を図る。

【主な事業】

〔※経費は21年度事業費総額、また、末尾 [番号] は第7章の事業番号に対応〕

◆ 休日診療・休日調剤事業	(継続)	51,011千円	69
◆ 夜間小児初期救急診療事業(豊島こども救急クリニック)	(継続)	15,324千円	70
◆ 障害者等歯科診療事業	(拡充)	43,610千円	58
◆ 妊婦健康診査事業(超音波検査の年齢制限撤廃)	(拡充)	210,194千円	60
◆ 豊島健康診査センター運営助成事業	(継続)	32,522千円	71

【チャレンジ指標】

〔※調査等の関係で、基準値以降の数値がない場合、現在欄は「同左」としています。〕

指標名称	基準値	現在	4年後 (24年度)	目標 (27年度)
かかりつけ医のある人の割合	66.2% (19年度)	同左	70.2%	73.2%
休日診療・休日歯科診療・ 小児救急診療事業の実績	3,713人 (18年度)	4,370人 (19年度)	5,000人	5,000人
あぜりあ歯科診療(障害者、 高齢者、訪問診療)の実績	3,976人 (18年度)	4,272人 (19年度)	4,465人	4,730人
休日調剤・相談の利用実績	1,572件 (18年度)	2,729件 (19年度)	3,130件	3,430人

